

題	Ten・ten 2025 in 横浜赤レンガ倉庫 ～書・∞の証明～
主催	Ten・ten プロジェクト
後援	毎日新聞社
テキスト	栗本高行
展覧会	陳列 有限会社美術表装岡忠 2025年9月9日（火）～15日（月） 11時～18時（初日13時～ 最終日～17時） 横浜赤レンガ倉庫1号館2階 神奈川県横浜市中区新港1-1 231-0001 045-211-1515 入場・参加無料
企画	ギャラリートーク 毎日14時～14時半 ワークショップ 15時半～16時半 9日（火）「筋目がきであそぶ」石井抱旦 10日（水）「にじみの不思議」石井抱旦 11日（木）「リペルアート」小川移山 12日（金）「転写であそぶ」石井抱旦 13日（土）「リペルアート」小川移山 シンポジウム 14日（日）14時～15時半 「これからの書はどうか？ どうする？」 小川移山 千葉幽篁 白石弥生 越智麗川 平蔵（進行）
図録	表装・撮影 有限会社美術表装岡忠、東洋額装株式会社 ほか 印刷・製本 株式会社グラフィック（上質紙 四六判 110 kg 400部） 設計 坂巻裕一 2025年9月9日発行 ちらし（A4 テイクGA-FS 四六判 112 kg 7000部）株式会社グラフィック はがき（A6 片面コートカード L判 270 kg 7200部）株式会社グラフィック、株式会社ナカノ 封筒（角2 カラーホワイト 100 g平米 1500部）株式会社グラフィック 目録（A4 上質紙 四六判 110 kg 3000部）株式会社プリントパック
事務局	代表・問い合わせ 石井抱旦 神奈川県茅ヶ崎市中海岸2-10-13 253-0055 0467-86-2615

テキスト 書が志向するものとは ―Ten・ten 2025 に寄せて 栗本高行

横浜赤レンガ倉庫での開催が恒例となった書の合同展示「Ten・ten」は、既存の公募団体の制約から解き放たれた環境を活かして、出自や経歴が多様な作家の集結を実現してきた。また、書家以外による広義の文字や線の表現をも排除せず、21世紀という「いま・ここ」を体現する創作の自在なあり方を多角的に見せることにも意を用いてきた。展覧会のサブタイトルに「書・∞の証明」と銘打たれていることから、今年の企画構成でも、そうした自由闊達な路線の踏襲が予想される。

しかし、そもそも表現の自由自在さとは何を指し示しているのだろうか。また、現代の書に、無限大の可能性はあらかじめ保証されているのだろうか。

こんな言葉を投げかけるのも、芸術における自由の裏面には、際限のない表現の拡散という事態が貼り付いており、それが今日ほど当てはまる時代はないと思われるからだ。

すでに20世紀の後半において、アメリカの美術批評の代表的論客であるアーサー・C・ダントーが、「anything goes（何でもあり）」の局面が現代アートの世界に押し寄せているという指摘を書き記している。彼は、アンディ・ウォーホルの《ブリロの箱》が美術マーケットに登場した出来事に触発された。それは、洗剤付きタワシの商品パッケージを木材の表面に印刷して積み上げた物体を展示することで、そのまま「作品」としての資格を主張した出来事であった。ウォーホルのこうしたシニカルな身ぶりに対する批評の側からの応答として、ダントーは一連の美学的著述をものしていた側面がある。

《ブリロの箱》が象徴するような〈芸術の終焉〉現象にダントーが対峙したテキストには、「制作」と「行為」という二つの観念への分裂が美術作品の内部において生じている事態に対する、深刻な受け止めが見られる。それまで人々は、この二つの観念が美術作品を成立させる両輪であることを自明視していた。ところが、丹念な技術の重みが欠落し、アイデアとその発表行為ばかりに支えられた変哲もない物体が、自己を神聖な作品として見つめるよう要求を開始したのである。そうした重大な転換こそが、彼に現代アートに関する批評の筆を執らせた要因の一つだと言える。

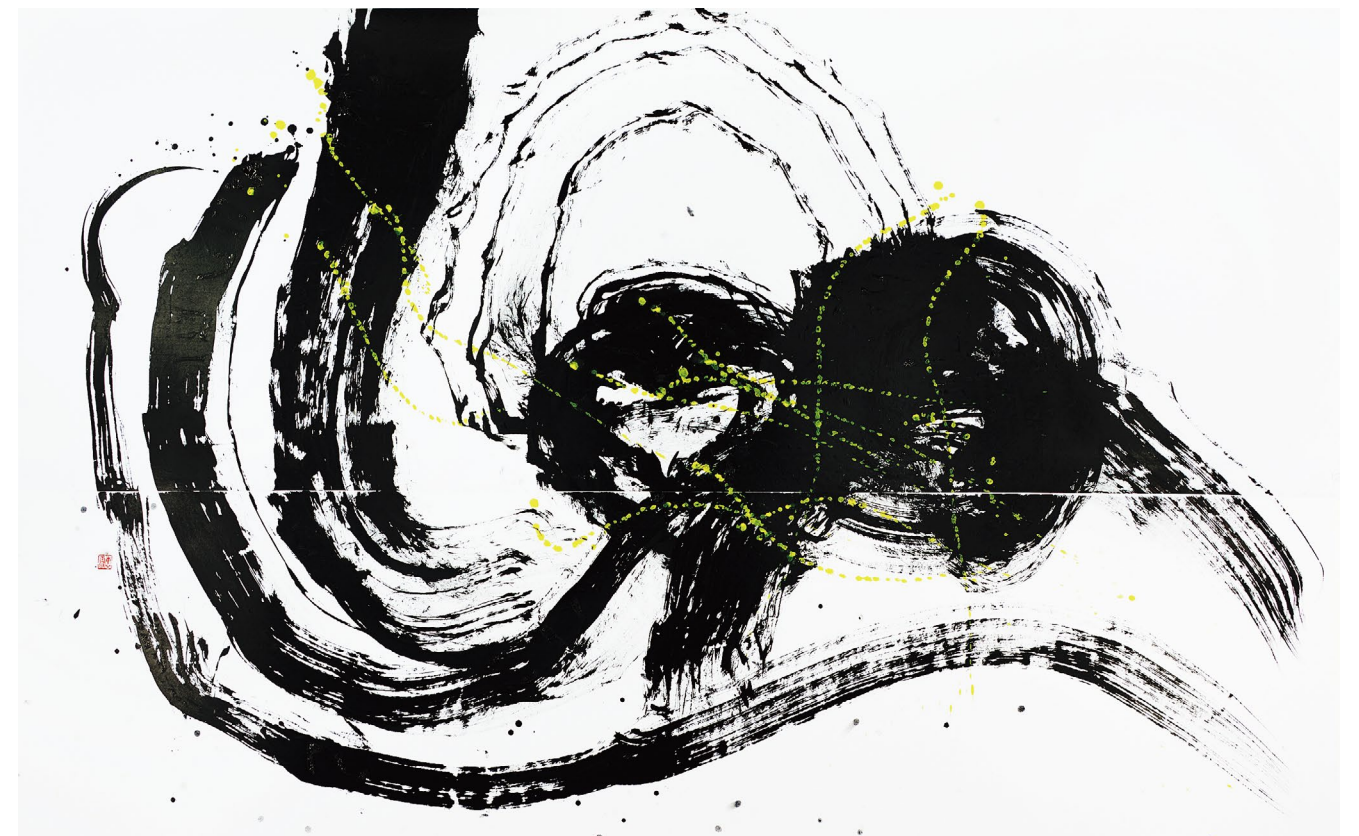
筆者の見立てでは、このウォーホル問題の余波は、コンセプトが作家の手仕事に対して先行するプロセス・アートから、生成AIを活用したイメージ・メイキングの事例にまで至っている。そして、今日の美術が抱える課題の困難さは、このように表現の原理的な側面へ視線を潜らせなければ語れないほどの水準にまで到達しているのではないか、との危機意識すら抱く。

ひるがえって、現代アートの傍らにあるかぎりでの書の現場には、どんな問題が横たわっているかに思いを巡らせてみたい。その際、「anything goes」式に様々な手法がとてつもない勢いで実験・消費されていく世の中において、書家たちが芸術制作者としての自己の立脚点をどこに見出していくのかは大きな関心事である。近代を通じて書という芸術を究め尽くすために登場した多数の思考やテクニックを駆使する手つきとは別のところに、注目すべき点があるのかもしれない。また、それら全てを駆使してもなお、新しい表現への本質的な跳躍を求める社会のニーズに書が応えられるかどうかの切所に居合わせている事態を直視することも、書き手の力量の一つとして求められているはずだ。美術を取り巻く環境の変化に対して、柔軟な姿勢の提示を作家がこれほど求められる瞬間はなかったように思われる。多様な個性が集う「Ten・ten」は、書という文脈から、そうした時代の要請に明らかな答えを出すことができる貴重な枠組みだ。

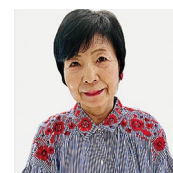
書の無限大は、芸術表現の無限大に通底するのか。この疑問を検証する手がかりを、今回の展覧会が提供してくれることに期待したい。

2025年4月（Kurimoto Takayuki 美術評論家）

題 **牡牛座**
寸法 170×270 cm
材料 墨、アクリル絵の具、鳥の子紙
コメント 今年の運勢 大吉希望
ラッキーカラーは黄色の星
毎日 小さな幸せ いっぱい



作 **赤澤恵雪**
Akazawa Keisetu
生年 1948
所属 奎星会、毎日書道会、一華会
師 大楽華雪
連絡先 090-1188-7339



題 生生流転

寸法 91×180 cm

材料 画仙紙、墨

コメント 生きていることへの感謝をもとに、途上に起こる喜びも悲しみも憎しみもすべてを慈しみ、受け入れられる大きな人間になれたらいい。…映画「長江」の主題歌さだまさし「生生流転」より



作 有賀瑚風

Ariga Kofu

所属 産経国際書会、東洋書芸院

師 梅木仙隆

連絡先 eikosmile1221@gmail.com

経歴 2004～09 東洋書芸院特選及び推薦受賞 東京都美術館
2012～24 布穀会展 有楽町朝日ギャラリー有楽町マリオン11階
2014 東洋書芸院瓦木賞受賞 東京都美術館
2015 書壇受賞に輝く作家展 セントラルミュージアム銀座
2016～21 group F展
2016 Ten・ten 2016－線－55のスタイル 横浜赤レンガ倉庫
2017～ 産経国際書展 東京都美術館
2017 書家による抽象表現展 銀座ギャラリー志門
Ten・ten 2017－線－37+1のスタイル 3331 Arts Chiyoda
2018 Ten・ten 2018－書の実験室 3331 Arts Chiyoda
2019 産経国際書展ニッポン放送賞受賞 東京都美術館
2021 産経国際書展会友賞受賞 東京都美術館
2022～ 京都大徳寺黄梅院展（三人展）
2022 産経国際書展会友特別奨励賞受賞 東京都美術館
2022～ 書家による抽象表現展 銀座ギャラリー志門
2024～ Ten・ten 2024～書・今・旬 横浜赤レンガ倉庫
2024 ソウル仁寺洞ワールドアートフェア 仁寺洞韓国美術館



題 流転

寸法 121×273 cm

材料 画仙紙、墨液、水性塗料

コメント さまよいながら文字が変化していく… その過程を楽しんでいます



作 井澤懷玉

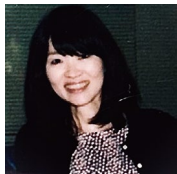
Izawa Kaigyoku

生年 1977

所属 奎星会

師 榛葉壽鶴

経歴 2008 第57回奎星展 奎星賞
2010 第59回奎星展 奎星賞
2011 第60回奎星展 準特選
2016 第65回奎星展 無鑑査特別賞
2018 Ten・ten 2018 in 3331 ARTS CYD 書の実験室
2021 第72回毎日書道展 毎日賞
2023 第63回静岡県芸術祭 準奨励賞

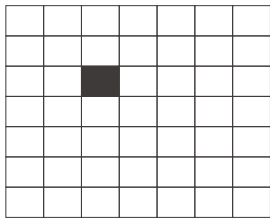


題COSMOS—○の変相

寸法224×42 cm×7 (部分)

材料塩ビ板、顔彩

コメント円、丸、球、輪… 無限、永遠、循環、輪廻…
広がるイメージがそれぞれの世界を生んでくれることだけは確かだ。



分正伸伴穴付添

作石井抱旦

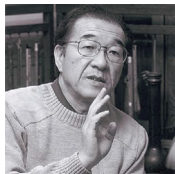
Ishii Houtan

生年1947

所属毎日書道会、奎星会、照心書道会

師水越茅村、宇野雪村

経歴1974～ グループ展 東京銀座十字屋ギャラリー他5回
1990～ 海外展 ヨーロッパ巡回、アメリカ巡回、北京、ベルリン、ソウル等
個展 茅ヶ崎市文化会館、銀座ギャルリー志門等7回
2009 茅ヶ崎の書展 茅ヶ崎市美術館 井上有一・水越茅村・石井抱旦
「神奈川の歴史上の人物100人」の一人「藤間柳庵 生誕・終焉の地」碑文揮毫
2010 市立東海岸小学校校歌(岩谷時子 作詞・弾厚作 作曲) 碑文揮毫
2013～日・米美術交流展 金沢、東京、アメリカ3回、パリ2回、ニューヨーク1回
2014 東アジア文化都市2014 總持寺・横浜
2015 東アジア文化都市2015 招待出品 光州市国立アジア文化殿堂・韓国
2017 第15回NAU21世紀美術連立展 奨励賞 新国立美術館
2018 第16回展NAU21世紀美術連立展 20 m²のブースで企画個展 新国立美術館
2021 かたちへの眼差し展 アートサロン毎日
2023 COSMOSの故郷は山形にありて石井抱旦獨展 山形県郷土館 文翔館
2025 小林清風・竹雅両先生の顕彰事業を主催する 小田原三の丸ホール
第50回茅花展主催 茅ヶ崎市美術館



題水の影

寸法100×80 cm×10 (うち2)

材料木皮紙、墨、岩絵具

コメントテクスチャーの面白い紙、それに墨をのせる試み



作遠藤泉女

Endo Sennyō

生年1954

所属毎日書道展、奎星会

連絡先岐阜県各務原市那加琴が丘町3-24 504-0006

経歴書・インスタレーション
2002、15、19、22、24 個展 ギャラリーなうふ現代・岐阜
2003、04、06、08、10、12、14、16、18、25 個展 ガレリアフィナルテ・名古屋
2005、16 個展 オリエアートギャラリー・東京
2014 個展 各務原市企画、中山道鵜沼宿脇本陣アート展ほか
以下グループ展、二人展(京都、福井)、ワークショップなど多数
1998～21 CROSSING 名古屋・岐阜、2012 CROSSING and Friends ドイツ
2007～25 それぞれの空間表現展 岐阜県美術館
2009、11 Kulturremisen International Workshop ブランデ・デンマーク
2010 Japanischer Blick 日本のまなざし ジークブルク・ドイツ
2012～24 Ten・ten 赤レンガ倉庫、札幌コンチネンタルギャラリー、3331 アーツ千代田
2019 rendez-vous バーゼル・ペーターズホーフギャラリー・スイス



題 七転八起

寸法 120×268 cm

材料 画仙紙、墨、合成洗剤

コメント 墨は言葉にならない
心の動きを表わしてくれる
墨の力はすばらしい



作 大石恵子

Oishi Keiko

生年 1948

所属 奎星会

師 榛葉壽鶴

連絡先 静岡県島田市横井4丁目3-9 427-0024
0547-36-2310、090-4157-0138

経歴 2017 第69回毎日書道展毎日賞
Ten・ten 2017 3331 アーツ千代田

2018 第67回奎星展奎星賞
Ten・ten 2018 3331 アーツ千代田

2020 第60回静岡県芸術祭奨励賞

2021 Ten・ten 2021 in 横浜赤レンガ倉庫

2023 第24回宇野雪村全国書道展奎星賞

2024 第64回静岡県芸術祭奨励賞



題 おもちやのマーチ

寸法 121×273 cm

材料 画仙紙、ネオカラー、墨液

コメント さあ！おもちゃ箱から飛び出して…



作 大石幸徑

Oishi Kokei

生年 1986

所属 奎星会

師 榛葉壽鶴

経歴 2010 第62回毎日書道展 U23奨励賞

2014 第63回奎星展 奎星賞

2018 第70回毎日書道展 秀作賞

2019 第59回静岡県芸術祭展 準奨励賞
第68回奎星展 毎日新聞社賞

2020 第60回静岡県芸術祭展 奨励賞

2023 第63回静岡県芸術祭展 奨励賞

2024 Ten・ten 2024 in 横浜赤レンガ倉庫



題
寸法
材料
コメント

草莽崛起（そうもうくつき）1

300×100 cm（部分）
リペルペーパー、リペル液
草莽崛起は「民衆よ立ち上がれ」のメッセージです。何に対して、何のために？人間の知情意の波動はそれを方向づけます。宇宙も常住壊空の生命のダイナミズム。そこに住む人間も、何かと闘い破壊し調和し、何かを形成します。心と目はその要。何かをキャッチし、それを無限に展開します。



作
生年
師
連絡先
経歴

小川移山

Ogawa Izan
1946
鈴木翠軒に私淑
埼玉県入間市下藤沢507-1-101 358-0011
080-5505-5373、izan.ogawa@gmail.com
1968 武蔵大学在学中書塾設立
現在 移山塾、リペルアート協会、One Drop カルチャーサークル主宰
1986 千紫会万紅展翠軒賞、東日本書展準大賞
1987 千紫会万紅展千紫会賞 後 無所属
1988～2025 個展、グループ展、社中展多数（国内、チェコ共和国、英国等）
2015～リペルペーパーと出会いリペルアート作品制作を始め
リペルアート発案者上田邦介氏の益を受く
2023 NAU展（国立新美術館）、Ten・ten横浜赤レンガ倉庫
2024 個展2（HolmfirthTech、英国 & Eternal Journey、好文画廊）
Ten・ten 横浜赤レンガ倉庫
1997～現在 チェコ交流 個展、グループ展、ワークショップ等開催
（カレル城、チェコ国立博物館東洋館等）
2023～現在 英国交流 個展、ワークショップ等開催（HolmfirthTech等）
受注制作：ザ・ペニンシュラ東京、椿山荘、西鉄ソラリア京都ホテル、
マリオネットホテル北海道えにわ等



題
寸法
材料
コメント

TAIRYU

97×107 cm
墨、ネオカラー、岩塩
2度目の出展。岩塩の流れと墨の流れ、のおもしろさが出ていたら…。赴くまに。



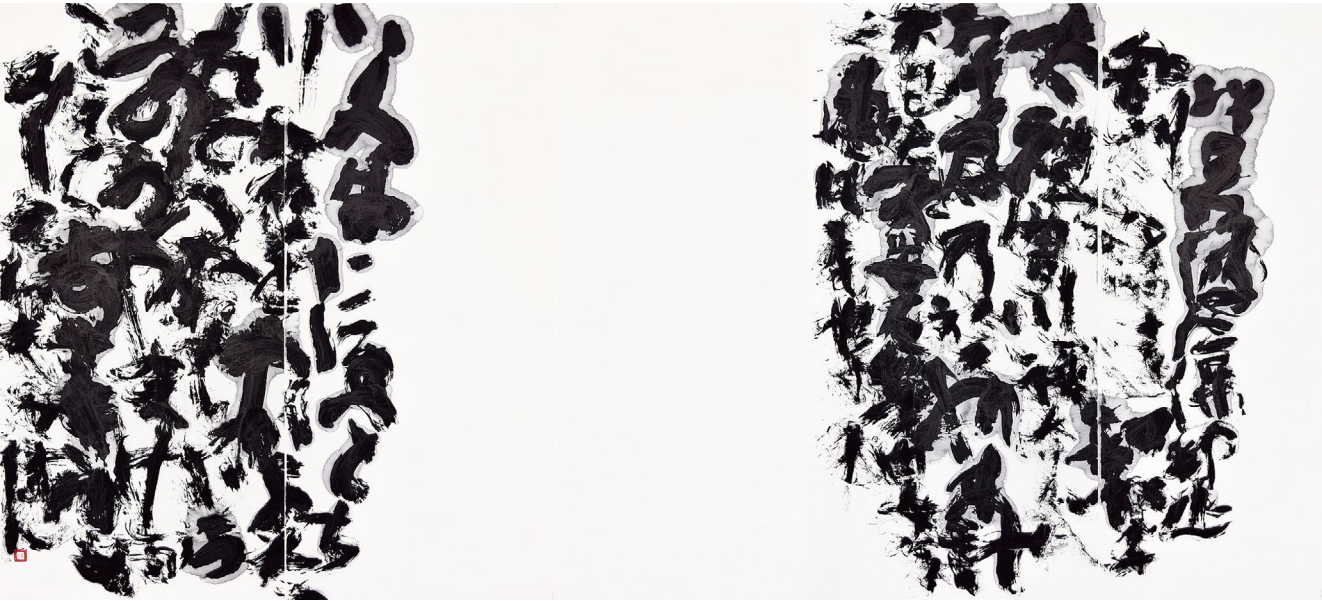
作
生年
所属
師
連絡先
経歴

小椋紫仙

Ogura Shisen
1953
奎星会、（一）亜細亜美術協会、毎日書道会
稲村雲洞（書）、楊景更（絵）
三鷹市 090-4925-9172
奎星展
亜細亜現代美術展
愚図展（5人展）
韓国太平洋美術展～2025 韓国ソウル
毎日展
亞洲現代美術展 中国上海



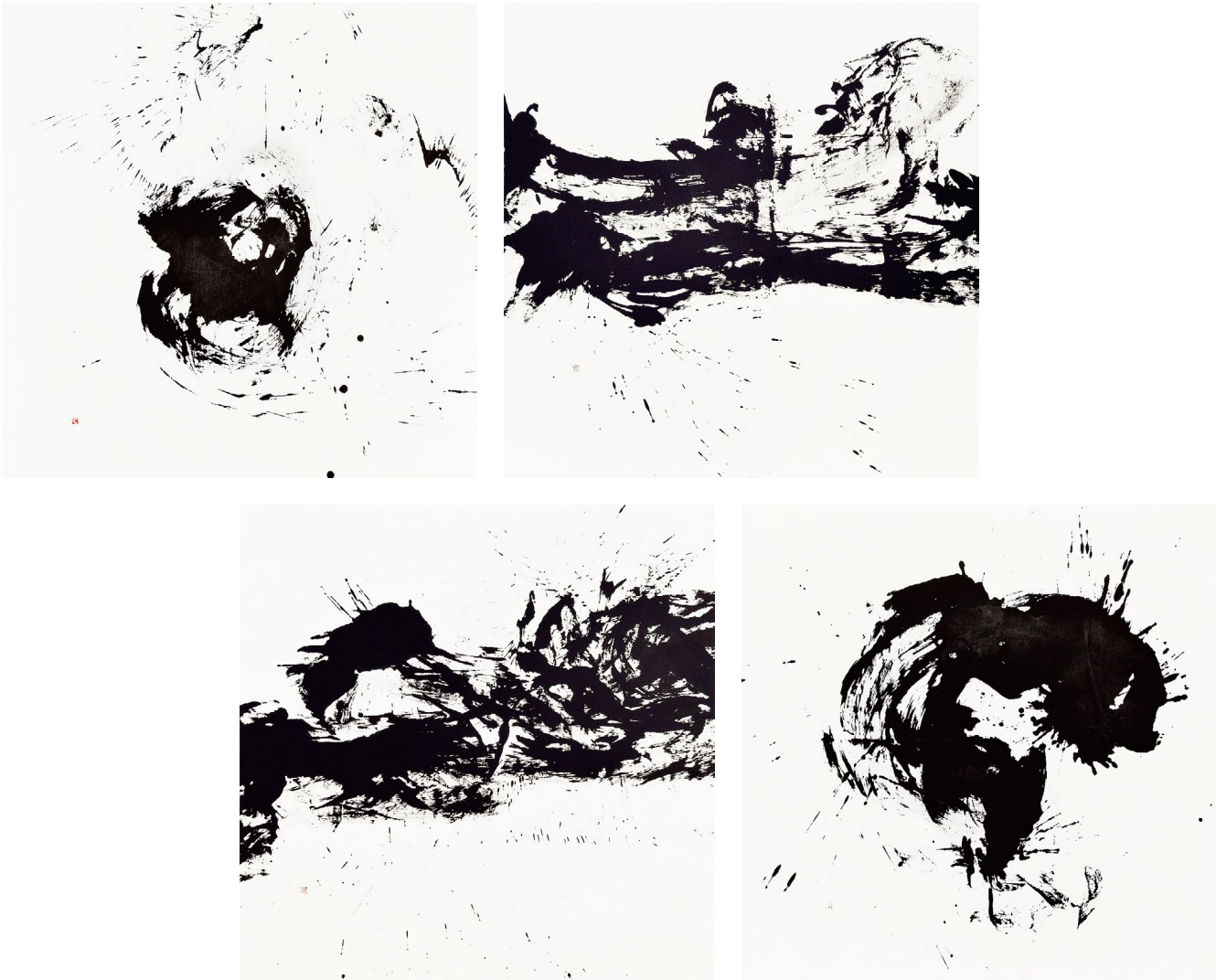
題 **いろはうた**
寸法 135×300 cm
材料 画仙紙、墨、ポンド
コメント 日本独自の文字である仮名が作られた古き時代に思いを馳せる。
仮名は言葉を音で表す記号である。
書を志す我々はそれを記号にとどめず、表情をもたらすことができる。



作 **越智麗川**
Ochi Reisen
生年 1955
所属 現日会
師 城所湖舟
連絡先 横浜市港南区日野8-13-20 234-0051
nb-ochi@mbp.nifty.com
経歴 1985～「現日書展」・「現日春季書展」へ毎回出品
1987～「賀墨書展」(故 城所湖舟社中展)へ毎回出品
1991～「グループ墨花」発足以降33回グループ展を開催
2007～「書を楽しむ麗川会展」隔年開催
2008～「神奈川代表書家展」毎回出品 桜木町 ゴールデン文具主催
2013 「TOKYO 書2013 公募団体の今」出品 東京都美術館
2019 「モナコ日本芸術祭」出品 国立レニエ3世オーデイトリアム・モナコ
2019 「日本美術・和魂洋才」出品 リンダ・ファレル・ギャラリー・パリ
2019 「Ten・ten 2019 in 横浜赤レンガ倉庫 両極の書」出品
現在 現日会副理事長、賀墨会幹事、守玄斎書道教室講師、書を楽しむ麗川会主宰



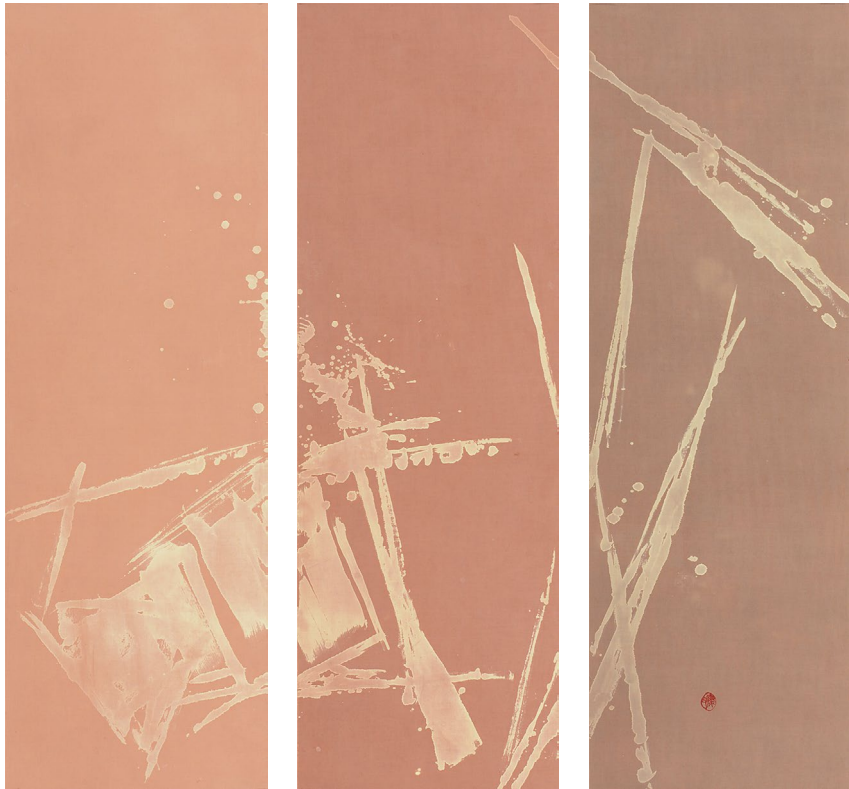
題 **Charge forward**
寸法 91×91 cm×4
材料 和紙、墨
コメント 日々想い… 日々感じ… 白黒の世界に限りない広がり求めて。



作 **岸直美**
Kishi Naomi
生年 1974
所属 群馬、高真会
師 真下京子
経歴 2012 第13回「宇野雪村賞」全国書道展 兵庫県教育長賞
2014 高真会展－ころがる金文－ YOU HALL
2015～2019 現代の書と花展－千支を書く－
2022 書道芸術院秋季展 菊花賞
2025 多胡碑・第22回群馬県書作家展 多胡碑記念館



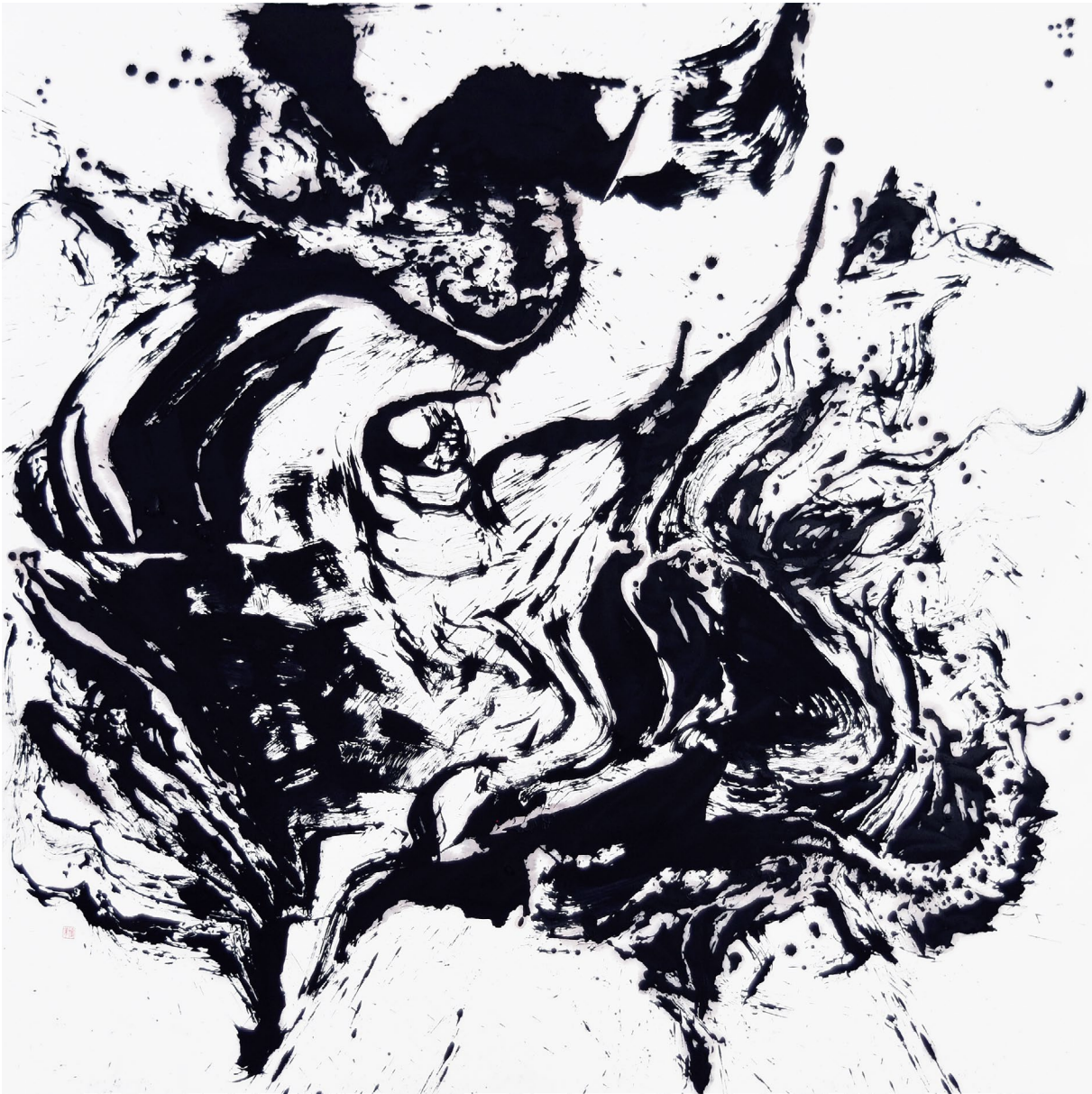
題 日日是好日
寸法 135×135、135×45 cm×3（部分）
材料 画仙紙、草木染めの布（月桃、車輪梅等）、ネオカラー、抜染液、段ボール等
コメント 2020年沖縄に移住しました。森や海の恵み、深い歴史と営みの中で、地域の魅力を最大限に活かせたらと思う。染色家の友人の協力を得て、沖縄ならではの草木染めの布に線を面を雫を書いてみた。新たな挑戦！



作 岸本泰子
Kishimoto Yasuko
生年 1950
所属 奎星会
師 喜代吉郊人
連絡先 名護市宇茂佐の森2-2-9 905-0009
090-3377-7126、y-kishimoto4750@docomo.ne.jp
経歴 2009 毎日書道展会員
2013 出雲女流五人書展
2014 奎星会同人会員
2014 毎日女流書展運営委員
2016 Ten・ten 2016 in 横浜赤レンガ倉庫
2023 書壇最高賞に輝く作家展
2024 岸本泰子書作展～扉を開けてそしてつ・づ・く～



題 共鳴
寸法 118×118 cm
材料 画仙紙、ネオカラー、墨、染料
コメント 色も音も匂いも織り込むことができたらいいのにと思う



作 喜代吉博美
Kiyoyoshi Hiromi
師 喜代吉鐵牛
経歴 2013 横浜赤レンガ倉庫 2013 - Sho is it! -
2016 Ten・ten 2016 IN 横浜赤レンガ倉庫
2017 奎星展上田桑鳩記念賞
2024 Ten・ten 2024 in 横浜赤レンガ倉庫～書・今・匂～



題 thread、string、yarn
寸法 70×34 cm×2、70×70 cm
材料 筆、墨、紙
コメント 「糸」を素材にして制作した。



作 草津祐介
Kusatsu Yusuke
生年 1981
所属 東京学芸大学芸術・スポーツ科学系
連絡先 東京学芸大学 東京都小金井市貫井北町4-1-1 184-8501
ykusatsu@u-gakugei.ac.jp
経歴 2023 「古漢字」書法作品国際展 安徽芸術学院美術館
2023 傳承・流變 中日韓書法名家作品展 天津美術館
2024 Ten・ten 2024 in 横浜赤レンガ倉庫 ～書・今・旬～ 赤レンガ倉庫
2024 中日書法作品交流展 藝道文心 山西大学
2025 中華書道学会国際邀請暨會員聯展 国立台湾芸術教育館



題 shade－波
寸法 135×90 cm
材料 鳥の子紙、墨
コメント 瞬時に現れる点・線・形・色から
幽玄の世界が浮かんでくる。
時間と空間のせめぎあいの中で、
作品として完結させたいと願う。



作 佐伯孝子
Sacki Takako
生年 1954
所属 奎星会、毎日書道会、飛雲会、煌彩会
師 加藤博暘
連絡先 兵庫県神戸市中央区北野町1-2-7-508 650-0002
078-222-0074
経歴 2003 奎星展上田桑鳩記念賞
2004、2009 煌彩会書展 神戸
2006 毎日書道展会員賞
2009 第2回日中女流書道家代表作品展 北京
2009～2024(7回) 現代の書新春展セントラル100人展
2009～2025(9回) 現代女流100人展
2013 TOKYO－書2013出品 東京都美術館
2014 煌彩会選抜前衛書展 兵庫県立美術館・原田の森ギャラリー
2020 佐伯孝子前衛書展 PASSION 兵庫県立美術館・原田の森ギャラリー
2021 毎日書道顕彰 芸術部門



題 無限
寸法 無限
材料 モニタ
コメント 読み込み中…



作 坂巻裕一
Sakamaki Yuichi
生年 1978
所属 奎星会
師 田村空谷
経歴 2000 書道展 多摩美術大学
2021 書をアートへ 東京画廊



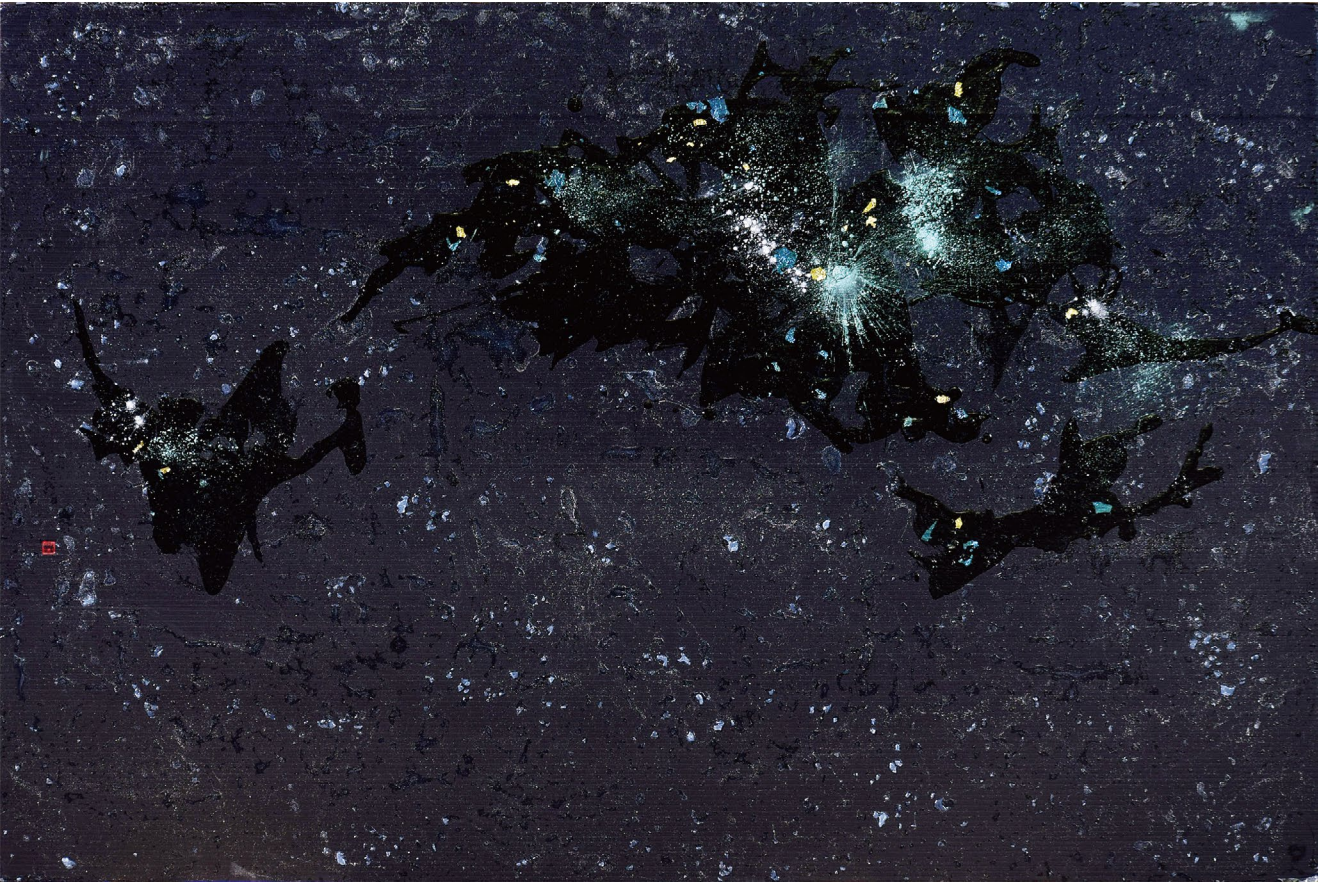
題 夢・流転 2025ー9
寸法 112×340 cm
材料 ユポ紙、ボンド墨、アクリルラッカー
コメント 創造することのおもしろさ、心の中の抽象的な概念をかたちにしていくことの楽しさを感じて制作しています。
作品を通して観賞者に前衛書の魅力を届けられたらいいですね。
現在は、「夢幻泡影」（金剛般若経より）をテーマとして、「夢」「幻」「泡」「影」という、実体がないものを抽象的に表現することを目指しています。



作 塩崎 艸
Shiozaki Sou
生年 1956
所属 奎星会、毎日書道会、奎学舎代表
師 宇野雪村、長沼透石
連絡先 北海道札幌市豊平区平岸1条4丁目2-3-110 062-0931
011-555-6937、imodati2@gmail.com
経歴 1993 毎日書道展 毎日賞
2000、2002 個展「SHO」 勝毎サロン・帯広市 2回開催
2002 NPO十勝文化会議 文化奨励賞、奎星展 無鑑査特別賞
2006、2009 第3回個展 広尾町、第4回個展 浦河町
2007、2019 奎星展 同人特別賞
2010 '10奎星50人の書 上野の森美術館・東京都
2016 Ten・ten 2016 ー線ー55のスタイル 横浜赤レンガ倉庫・横浜市
2017 Ten・ten 2017 線のゆくえ 3331アーツ千代田・東京都
2018 Ten・ten 2018 書の実験室 3331アーツ千代田・東京都
2019、2023 第5回個展「廻の軌跡」 札幌市、第6回個展「夢幻泡影」 帯広市



題 蒼I.II.III
寸法 60×90 cm
材料 プラスチックダンボール、墨、水性アクリル絵具、箔、黒真珠粉
コメント 荘厳な蒼い宇宙をイメージしながら自分の想いを点から線に形作っていく。



作 柴田丹鳳
Shibata Tan-ou



題 残響—2025無限
材料 スプレー、和紙、セラミック塗料
コメント 目に見える編み目と、見えない空白、整然とした配列とあるがままの皺、崩れゆく余韻。その狭間にあるものが、「残響」として今なお生じ続ける



作 白石弥生
Shiraishi Yayoi



題 illusion I、illusion II
寸法 各 135×105 cm
材料 画仙紙、ネオカラー、墨
コメント 文字を素材として、線とカタチで表現する。∞の可能性を追求中。



作 菅原美由紀
Sugahara Miyuki
生年 1964
所属 奎星会、毎日書道展、飛雲会、煌彩会
師 佐伯孝子
連絡先 sugaharamiyuki@gmail.com
経歴 2000 奎星新人 100 人展 上野の森美術館
2004、2009 煌彩会書展 神戸
2013 神戸ビエンナーレ 2013 メリケンパーク・神戸
2014 煌彩会選抜前衛書展 兵庫県立美術館・原田の森ギャラリー
2018 奎星展 上田桑鳩記念賞受賞
2021 Ten・ten 2021 in 横浜赤レンガ倉庫 筆と腕 横浜
2023 毎日書道展会員賞受賞
2024 現代女流 100 人展 新進作家 東京



題 待つ
寸法 59.4×84.1 cm
材料 カーボンブラック、ケント紙
コメント もう時間がないし、いつまでも待つてはいられない。



作 杉山勇人
Sugiyama Hayato
生年 1979
経歴 群馬県高崎市生まれ
鎌倉女子大学短期大学部教授
博士(教育学)
専門は書写書道教育学・文字文化論
Ten・tenのほか、個展・グループ展等多数



題 古代への憧憬：殷（商）周革命

寸法 166×166 cm

材料 中国紙、アクリル絵具、他

コメント 中国歴代王朝には代表する色がある。殷は白、周は赤、秦は黒というように。前2作「あうんXII」「殷商の日」そして今作は、時の経過と物事の始まりから終わりをテーマとした3部作。それを古代王朝の殷（商）時代で表現した。時代には、物事には、人生には、始まりがあり終わりがある。そしてそれは形を変えながらも繰り返していく。



作 大楽悠雪

Dairaku Yusetsu

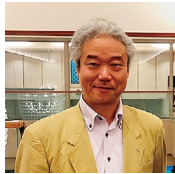
生年 1961

所属 奎星会、毎日書道会、一華会

師 大楽華雪

連絡先 広島県福山市

経歴 2003 福山市美術展覧会招待作家
2008 毎日書道展会員
2015 奎星会同人
2016 毎日書道展会員賞受賞
2017 毎日書道展審査会員
2023 奎星会ウイーン展出品

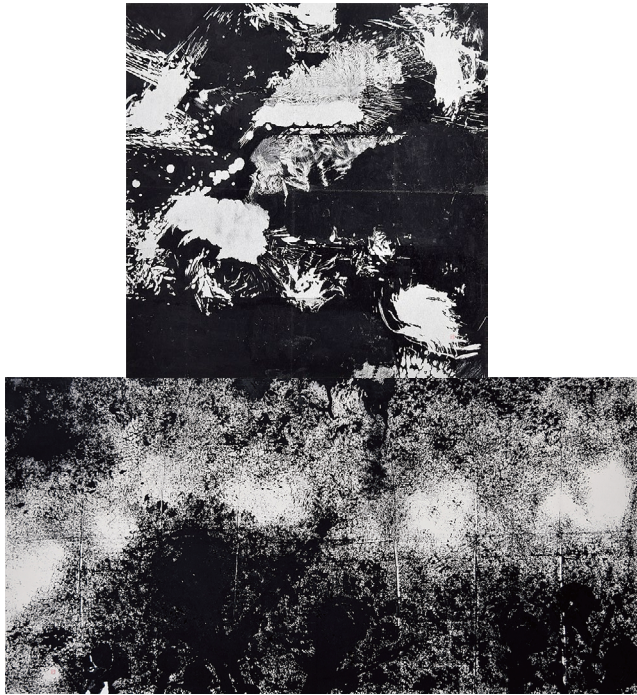


題 作品 雅

寸法 89×85 cm（上部）、73×152 cm（下部）

材料 和紙、ネオカラー、白抜き剤

コメント 上部の題「作品 祈り」 世界の子供たちが幸せに暮らせませう様に。白黒を反転させた作品とネオカラーで仕上げた前衛作品2点で、祈りの世界を表現しました。



作 高橋清堂

Takahashi Seido

生年 1949

所属 毎日書道会、奎星会

師 渋谷竹径

連絡先 神奈川県厚木市戸室5-20-1 243-0031
046-224-3704、sp684u49@rhythm.ocn.ne.jp

経歴 2002～2023 たのしい書道・（テン）主催（8回） 厚木市民ギャラリー
2008 奎星会俊英作家展 上野の森美術館
2011 毎日書道会会友
2012 第42回臨古展準大賞 神奈川県民ギャラリー
2013 第63回奎星展前衛書奎星賞 東京都美術館
2016 「童謡・唱歌をかく」出版
2018 Ten・ten 2018 in 3331 アーツ千代田
2021 Ten・ten 2021 in 横浜赤レンガ倉庫
2023 Ten・ten 2023 in 横浜赤レンガ倉庫
2024 Ten・ten 2024 in 横浜赤レンガ倉庫



題

呼応～2025

寸法

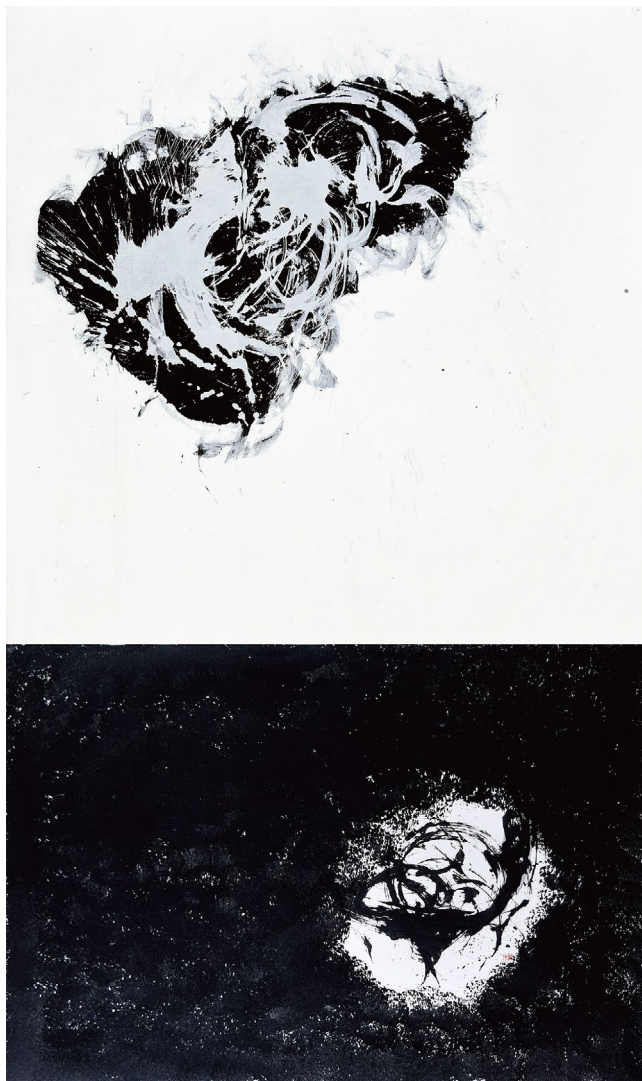
204×121 cm

材料

画仙紙、白抜き剤、墨液、ボンド墨

コメント

白の中の白、黒の中の黒、
皆さんにはどのように見えますか？
黒と白の呼応を楽しんでみました。



作

高橋柳泉

Takahashi Ryusen

生年

1975

所属

奎星会

師

長沼透石、八重柏冬雷

連絡先

北海道中川郡幕別町緑町 6-2 089-0614

経歴

2010 奎星展奎星賞
2017 北の構図展出品 帯広市民ギャラリー
2018 毎日書道展前衛部秀作賞
Ten・ten 2018 in 3331 アーツ千代田 書の実験室
2019 毎日書道展前衛部秀作賞
2021 Ten・ten 2021 in 赤レンガ倉庫 筆と腕
2022 中野北溟記念 北の書みらい賞奨励賞
2024 Ten・ten 2024 in 赤レンガ倉庫～書・今・旬～
2025 北海道書道展 準大賞



題

dhyrns

寸法

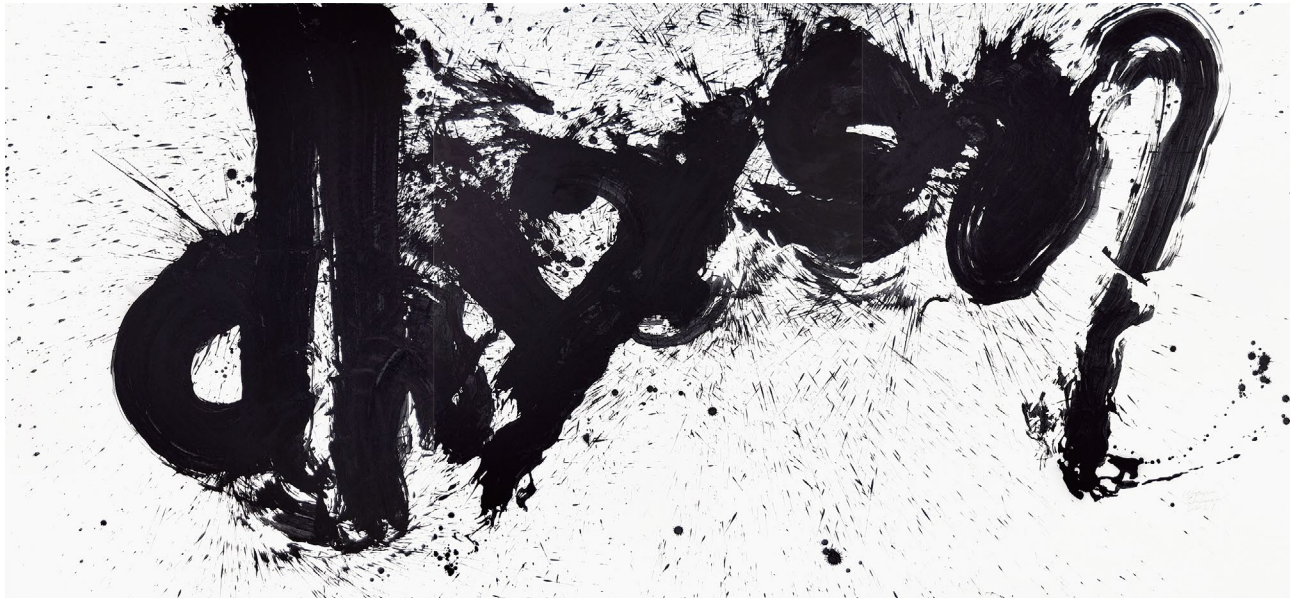
139×300 cm

材料

和紙、ボンド墨

コメント

「dhyrns」は「代筆野郎死ね」の略。
高校時代、顧問による作品のすり替えを経験し、怒りと虚しさを今も忘れない。
教育現場の不正や権力乱用への告発として書いた。
もう誰も声を奪われてはならない。



作

高濱渉

Takahama Wataru

生年

1986

連絡先

Instagram @hamashodo

経歴

左利きで小学3年の習字の授業で挫折し、習字と体育がある日は休むようになる。
契機となったのは中学生の時。それまではギャルが書く字に憧れを持っていたが、
社会の先生にお前の字は女々しいと言われショックを受けた。
ノートに綺麗に書いたところたくさん褒めてくれた。
なんでもできる兄貴に何か勝ちたくて、当時興味があった書道を高校入学したときに始めた。
なんだかんだあって今も続けている。



題 **アンダンテ・I**

寸法 69.5×137.5 cm

材料 中国紙、墨

コメント 時間の流れにより刻々と変化し新しい空間があらわれる。
表現は無限大。試行錯誤の繰り返し。これまでより新しいものが出来ただろうかと自問する。



作 **竹澤順子**

 Takezawa Junko

生年 1961

所属 奎星会

連絡先 090-6272-8300、takezawa-kj@nifty.com

経歴 1978～ えとの現代書展 鯖江 他 以後毎回出品
 1990 個展 NTTホールギャラリー・福井
 2006 毎日書道展会員昇格
 2007 「'07奎星俊英作家展」 上野の森美術館・東京
 2009 竹澤順子・吉田直樹二人展 ハーモニーホール福井・福井
 2012 奎星 書の流れ展‘創立から今への歩みII’ 東京セントラル美術館・東京
 2014 第63回奎星展 上田桑鳩記念賞受賞 東京都美術館
 2015 東アジア文化都市2015「日中韓書道交流展」招待出品 国立アジア文化殿堂・韓国光州市
 2016～ Ten・ten 2016 in 横浜赤レンガ倉庫 横浜赤レンガ倉庫 他 以後毎回出品
 2019 竹澤順子×鄭龍超2人展 アトリエ西宮・兵庫 西宮
 2021 「かたちへの眼差し」展 アートサロン毎日・東京 竹橋
 2021～「書と非書の際」展 JARFO 京都文化博物館、京都王藝際美術館 他 以後毎回出品



題 **stardust**

寸法 115×300 cm

材料 ロール紙、白墨液、白液

コメント 夜空の星屑の如く、儚く印象的に。
更に拡がる空間を想像しながら。



作 **竹村美園**

 Takemura Bien

生年 1967

所属 奎星会、毎日書道会

師 櫻井琴風、榛葉壽鶴

経歴 1999 毎日書道展前衛書部秀作賞
 2000 奎星展新人100人展 上野の森美術館・東京
 毎日書道展前衛書部毎日賞
 2004 奎星展A部奎星賞、静岡県芸術祭前衛書奨励賞
 2010 毎日書道展前衛書部秀作賞
 2011 奎星展A部無鑑査特別賞、毎日書道展前衛書部秀作賞
 2012 奎星 書の流れ展 セントラル銀座・東京
 2013～ Ten・ten 2013、2019、2021～2024 横浜赤レンガ倉庫・神奈川
 2018 静岡県芸術祭委嘱作家
 2021 かたちへの眼差し展 アートサロン毎日・東京
 2022 奎星展前衛書部同人特別賞



題 海響無尽

寸法 249×140 cm

材料 ユポ紙、墨、煤、ボンド

コメント 海の響きは尽きることがなく、
満ちても尽きぬ母の愛と重なる。

作 田中裕子

Tanaka Yuko

生年 1956

所属 奎星会

師 長沼透石、八重柏冬雷

連絡先 yuko.tanaka0915@gmail.com

経歴 2012 毎日書道展 秀作賞

2018 奎星展 清田岱石記念賞
個展 東京・銀座第7ギャラリー

2019 個展 帯広市・廊-KOUBUNDO

2021 毎日書道展 毎日賞
帯広市民劇場奨励賞

2022 毎日書道展 秀作賞

2023 個展 帯広市・廊-KOUBUNDO

2024 毎日書道展 毎日賞

2025 十勝文化奨励賞



題

寸法

材料

コメント

drop stone I

90×120 cm

PP 合成紙、墨

古代のプリミティブな美にふれるとイマジネーションが生まれる。文字の萌芽に思いを馳せる。
心の深奥に潜む記憶や経験を象（かたち）に託し、オルタナティブな美を探し求めたい。



作

谷川ゆかり

Tanigawa Yukari

生年 1963

所属 毎日書道会、奎星会、飛雲会、兵庫県書作家協会

師 江草幽研

連絡先 osadayukarikensaki@yahoo.co.jp

経歴 1993、2003 個展 南京町ギャラリー蝶屋 神戸

2007 兵庫県芸術文化協会創立40周年記念新進作家展 兵庫県民会館 神戸

2008～2020 壘土舎展 大阪産業創造館 大阪

2013 神戸ビエンナーレ2013 メリケンパーク 神戸

2013～2024 Ten・ten 横浜・札幌・鎌倉 東京

2018 書家による抽象表現展 ギャラリー志門 銀座

2018 個展 ふるもと珈琲店 神戸

2019 画・陶・書コラボ展 南京町ギャラリー蝶屋 神戸

2021 かたちへの眼差し展 アートサロン毎日 東京

2019～2025 書と非書の際展 京都文博・京都王藝際美術館他 京都、伊賀市など

2024 個展 ギャラリールネッサンス・スクエア 姫路

2024、2025 京都国際文化交流展 京都、倉敷



題 即不中

寸法 180×320 cm

材料 画仙紙、馬毛筆、墨（塗料、青墨）

コメント 「即不中（すなわち あたらず）」をテーマに、全紙仮装軸、2×6パネルの不定形の紙をセットし、無限の拡がりを表現できるよう試みました。



作 千葉幽篁

Chiba Yuko

生年 1960

所属 奎星会

師 伊豆田雪岳、宇野雪村

連絡先 広島県福山市新市町相方942 729-3102
toshi102510@yahoo.co.jp

経歴 1981 毎日書道芸術訪中団 山東方面調査
1994 学校開放事業、現代書道講座開講 3年間
尾道まるごとギャラリー展出品
千葉幽篁書作展開催
2015 TOKYO 書2015に「心行」出品
現在 毎日書道会会員
奎星会同人
一華会理事長
玄穹書道会理事長
守成書道会
広島県立福山誠之館高等学校教諭



題 青の追憶Ⅲ

寸法 60×240 cm

材料 画仙紙、墨、顔彩、ポスターカラー、膠

コメント 書く営為は、常に書的空間を意識した身体性表現であり、そこに生起される点と線は、互いに呼応する美的交響である。それらは、自由な変化と統一の止揚へのあくなき挑戦である。



作 中西浩暘

Nakanishi Koyo

生年 1948

所属 奎星会、毎日書道会、飛雲会

師 上松杜暘

連絡先 兵庫県神戸市長田区腕塚町6-1-31-1303 653-0036
078-642-5535

経歴 1968 前衛書に取組む
1997 奎星展 上田桑鳩記念賞受賞
1998 中西浩暘展 神戸三ノ宮・ダイヤモンドギャラリー
1999 毎日書道展 会員賞受賞
2000 毎日書道展関西代表作家ロサンゼルス展出品・訪米
2008 TEN・ten 東京・銀座洋協ホール 初回以降、毎年出品
2014 現代日本の書代表作家パリ展出品・渡仏
2017 第32回毎日現代書関西代表作家展・実行委員長
2020 ～書の抽象世界～中西浩暘展 神戸三ノ宮・フローラアーティストギャラリー
日本の書200人選展出品 国立新美術館
2023 奎星会ウィーン展出品 ウェルト・ミュージアム・ウィーン
2025 大阪・関西万博EXPOメッセにて席上揮毫



題 虹
寸法 120×240 cm
材料 合成紙、墨
コメント 文字を媒体として、内省によってあらわれたものがここにある。
澱のように沈殿し、深奥に潜むものをすくい上げ、新たな書の美を追い求めたい。



作 橋本安希子
Hashimoto Akiko
生年 1966
所属 奎星会、毎日書道会、飛雲会
師 江草幽研
連絡先 大阪府吹田市
akikohashimoto_m_s@yahoo.co.jp
経歴 1991 たんぽぽ5人のSHO展 南京町ギャラリー蝶屋・神戸
2018 船江千恵子・橋本安希子 SHO展 南京町ギャラリー蝶屋・神戸
Ten・ten 3331 アーツ千代田・東京
2021 Ten・ten 横浜赤レンガ倉庫・横浜
2022 個展 アートスペース余花庵・京都
2023 奎星ウィーン展 ウェルト・ミュージアム・ウィーン・オーストリア
2023～2025 京都国際文化交流展 京都市国際交流会館・京都
2024 Ten・ten 横浜赤レンガ倉庫・横浜
2025 白と黒の伝統－書と囲碁の世界－ 大阪・関西万博・大阪



題 テン・点
寸法 97×173.5 cm
材料 中国紙、墨
コメント 今回のテーマは理解できるようでできない大きな課題であり、作品に取り組むまでにずいぶん悩みました。そして、点を打つことで私の表現としました。点に自分を落とし込み、納得がいくまで繰り返し点を打ちました。線になる前の「点」に集中し、苦しみ、楽しみながら、墨の変化も試みました。



作 畑由紀
Hata Yuki
生年 1968
所属 奎星会
連絡先 snowfield1116@gmail.com
経歴 1968 福井県鯖江市生まれ
1992 えとの現代書展出品（企画・未在社） 2005以降毎年参加
第47回福井県総合美術展 福井県書作家協会賞
2007 園児による「アートクルーズ」指導 鯖江市教育委員会
2007、2009 「川端文学を書く」展 川端文学館・茨木市
2008、2018 第55、65回奎星展 特選
2009 第64回福井県総合美術展 書作家協会奨励賞
2016 第66回福井県書道展 坂井市長賞
第63回奎星展 準特選
2016、2023 第68、74回毎日書道展 佳作賞
2017 第18回宇野雪村賞全国書道展 特選
2019 第66回奎星展 前衛部門 奎星賞
2023 Ten・ten 2023 in 横浜赤レンガ倉庫～線のゆくへ Part II 出品
2024 Ten・ten 2024 in 横浜赤レンガ倉庫～書・今・旬 出品
2025 Ten・ten 2025 in 横浜赤レンガ倉庫～書・∞の証明 出品



題 古代礼賛

寸法 750×300 cm (行灯型)

材料 墨

コメント 5千年前、古代中国に残る岩絵（ペトログリフ）。
古代の人々の暮らし、狩猟、儀式、戦い、
娯楽などの様子が岩に描かれています。
象形文字の起源となる古代人の暮らしを
絵巻風に展開しました。



作 羽鳥戴白

Hatori Taihaku

生年 1948

連絡先 東京都北区東田端 1-6-11 114-0013

080-4138-2202

経歴 群馬県渋川市出身

グラフィックデザイナー、アートディレクターを経て墨象家・立体コラージュ作家

2009～2015 CACA現代アート作家協会 所属

2016 羽鳥戴白展 初個展開催 銀座スペース・オッティ

羽鳥戴白展 開催 日本橋小津ギャラリー

2017 Only Oneのスマホケース展 企画・開催 日本橋アートモール

羽鳥戴白展 開催 門前仲町 Chaabee

2019 平井秀耕・羽鳥戴白 二人展 開催 日本橋小津ギャラリー

2021～2025 Ten・ten in 横浜赤レンガ倉庫 出品

2017～2024 書家による抽象表現展企画 銀座ギャラリー志門 計9回

その他グループ展に多数参加



題 諸行無常

寸法 180×360 cm

材料 紙、墨



作 濱崎道子

Hamasaki Michiko

経歴 国内外での個展多数

2024～2025

Ten・ten 赤レンガ倉庫

Path of Ink Maui Arts & Cultural Center Schaefer International Gallery

NAU21世紀美術連立展 国立新美術館

Pegasus the Universe -天馬 宙(そら)へ- 六本木ストライプスペース



題

imagine

寸法

180×180 cm

材料

画仙紙、ネオカラー

コメント

心に思い描いた30年の復興の光



作

久谷敦子

Hisatani Atsuko

生年

1966

所属

奎星会、毎日書道会、飛雲会、煌彩会

師

佐伯孝子

連絡先

兵庫県明石市東野町 1982-2-907 673-0844
078-914-0845、090-7107-8738

経歴

2009 毎日書道展 毎日賞受賞
2015 毎日書道展 秀作賞受賞
2017 奎星展 高橋竹村記念賞受賞
2018 毎日書道展 佳作賞受賞
2019 毎日書道展 佳作賞受賞
2021 毎日書道展 佳作賞受賞
2025 大阪・関西万博 白と黒の伝統 出品



題

無へ

寸法

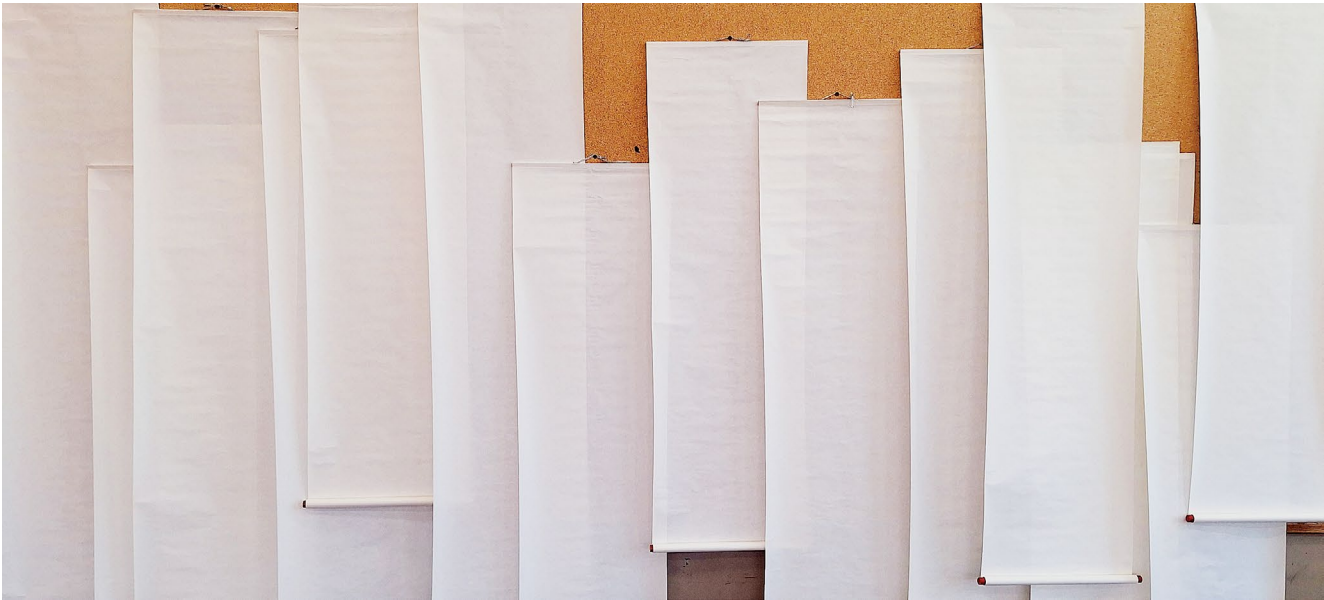
自在

材料

無

コメント

無に向かい、削ぎ落としていく



作

平蔵

Heizo

生年

1983

所属

文字区

連絡先

東京都足立区東和5-11-14-202 120-0003
hirakurakazunori@gmail.com

経歴

個展3回、グループ展多数



題 F U H E N_01-05
寸法 41.7×51.7cm×5～6（うち2）
材料 墨、アクリル
コメント 桜が咲き、山には新緑、月は廻る
波は輝き、風になる
そよ風を受けて朝日をあびる



作 堀内肇
Horiuchi Hajime
師 田村空谷
連絡先 plus.g@gol.com
経歴 2000 個展「3.14 YO-YO EXHIBITION」 東京・青山
2004 「わたしにとっての日本展-根」 東京・銀座
「日韓現代美術交流2004」展 東京・大崎
2005 EXPO Romanesque!_ASIAN Paris
2011 個展「グラフィカル書_26のカタチ」 東京・青山
2013 「Ten・ten」横浜赤レンガ倉庫 神奈川・横浜）
2017 個展「en.」～グラフィカル書-CROSSする領域～ 東京・新宿
2018 「Ten・ten」アーツ千代田 東京・末広町
2021 「かたちへの眼差し」アートサロン毎日 東京
2024 「Ten・ten」横浜赤レンガ倉庫 神奈川・横浜



題 SHO（書）
寸法 180×97cm×2
材料 画仙紙、墨液
コメント 字は書いていない 筆は使った
横線の集合（右から左又は左から右）
黒の組み合わせからできる余白



作 堀廬山
Hori Rozan
生年 1961
所属 奎星会
師 野崎嶽南
連絡先 長崎県大村市宮小路3-1339 856-0807
090-5287-7197
経歴 2021 Ten・ten 2021 in 横浜赤レンガ倉庫－筆と腕
2024 Ten・ten 2024 in 横浜赤レンガ倉庫～書・今・旬～



題 煌めき
寸法 38×52 cm
材料 艶ありケント紙、金箔、白ジェット
コメント 明るい未来を力強く優美に表現したいと思い金箔と艶あり黒用紙を使ってみました



作 松本丹芳
Matsumoto Tanho
所属 照心書道会
連絡先 090-2153-5134



題 ミエルモノ・ミエナイモノ
寸法 約 10×10 cm
材料 キャンパスペーパー、アクリル、古紙
コメント 見ようとする見える 見ようとしなければ見えない



作 真鍋智浩
Manabe Tomohiro
生年 1970
所属 奎星会、五風会
師 福田石峰、杖田董園
連絡先 島根県
経歴 2012 横浜赤レンガ倉庫 40
2016 TOKYO 書 2016
2018 Ten・ten 2018 in 3331 ARTS CYD
2023 Ten・ten 2023 in 横浜赤レンガ倉庫 線のゆくへ part II
2024 Ten・ten 2024 in 横浜赤レンガ倉庫 ～書・今・旬～



題 **sumi abstract 2025**

寸法 75×56 cm

材料 和紙、木製パネル

コメント 白でも黒でもない 丸でも三角でもない
どこまでも続いていて 全て何処かで繋がっている様な
まるでマイクロレベルの 小さなものを 顕微鏡で覗いている様な
或いはマクロレベルの 何か果てしなく大きなものを 見ている様な
その時の 言葉にならない思い 感覚 香り いつしか見た風景
そんな曖昧な感覚を 墨の美しさに魅了されながら 描いています



作 **溝口春菜**

Mizoguchi Haruna

生年 1975

所属 一般財団法人書海社

師 渡邊楊風

連絡先 東京都渋谷区在住 090-2157-6102

経歴 幼少期に書道を学ぶ。女子美術短期大学にて染織・テキスタイルデザインを習得、卒業後大塚テキスタイル専門学校にて染織・テキスタイルデザインを習得、本田技術研究所 (HONDA) カーデザインセンター勤務 カラーテキスタイルデザイナー、サンエーインターナショナル テキスタイルデザイナーを経て、墨と和紙によるドローイング制作
雅号：庭風
作品販売店：東京ミッドタウン STYLE MEETS PEOPLE、六本木ヒルズ g keyakizaka、品川 器の店 沈丁花、目黒 gallery 一白、京都 ONE AND ONLY
作品展示：HOTEL AMAM (麻布台ヒルズ ジャヌ東京)、吉祥寺マンションモデルルーム、中国 紫雲湖リゾートホテル日本食レストラン、京都御所マンションモデルルーム、徳島鳴門ホテルエクシブ日本食レストラン
入賞・作品展：
2021、2022 書海社展 入選 上野東京都美術館
2023 書海社展 入選・入賞 秀作賞
2021～2022 池袋 SEIBU本店 作品展示販売
2022、2023 銀座 ギャラリー志門 抽象画グループ展
2024、2025 東京ミッドタウン STYLE MEETS PEOPLE 個展
2024 京都 ONE AND ONLY 個展
銀座 ギャラリー志門 グループ展
2025 名古屋 アートサロン光玄 二人展
東京 南青山 OSLOW 個展
名古屋 BOLS 1987 展示



題 **雨のち晴**

寸法 113×66 cm×3

材料 ケント紙、ネオカラー、アクリル絵具

コメント 刷毛の跡が面白く、遊んで、楽しめた。



作 **森田圭瑠**

Morita Keiyo

師 田中一瑠、石井抱旦

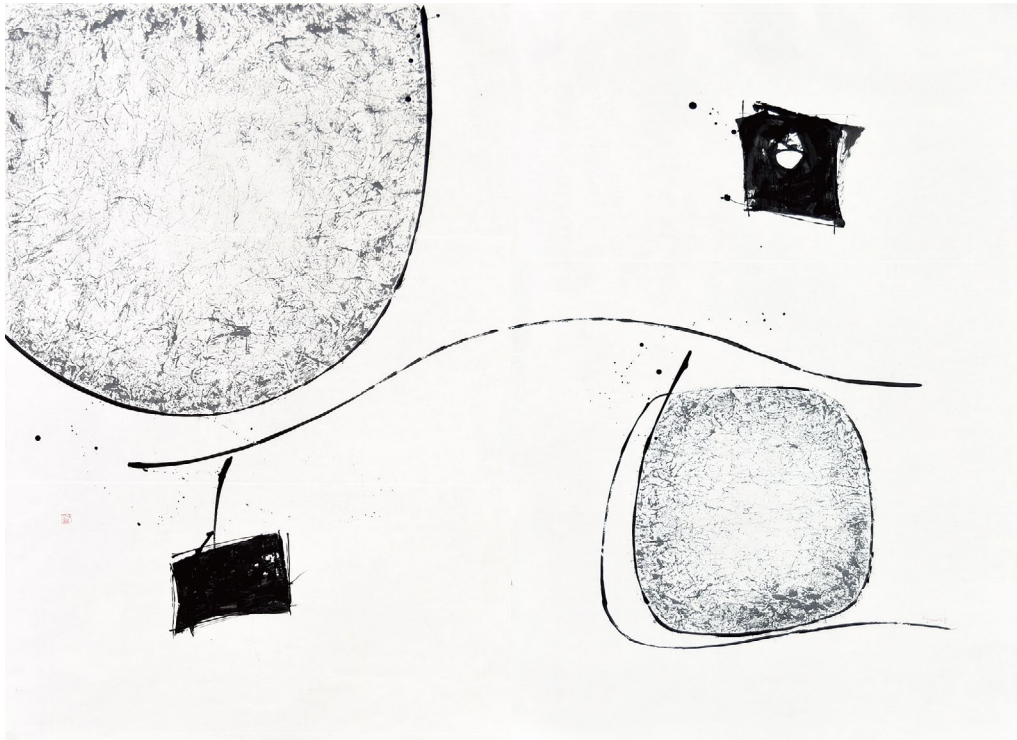


題
これ・これ

寸法
140×96 cm×2

材料
画仙紙、墨、ボンド墨

コメント
さりげなく囁くような線を書いてみたい。素のままの線とそこから生まれる意図的な面。
ちよつとだけ鮮明に、ちよつとだけ素朴に…。静けさの中にも流れる動きのリズムが表現できたら。



作
八重柏冬雷

生年
Yaegashi Torai

所属
1954

師
奎星会、毎日書道会

連絡先
長沼透石

経歴
torai.ky@gmail.com、http://torai-y.com

2013 第35回「日本美術の輸出」展 ニューヨーク

2017 北海道立帯広美術館に「花鳥風月～寂韻の響き～」収蔵

2019 現代和みアートフェス2 暮らしのRE-USE 奈良町にぎわいの家・奈良

2020 上川大雪酒造“碧雲蔵”酒ラベル揮毫

2021 「HOTEL NUPKA Hanare Art Scene #1 八重柏冬雷展」 帯広

2021 上川大雪酒造“碧雲蔵”感謝祭「書家・八重柏冬雷展」 国立帯広畜産大学内

2021 ニュージーランドワインラベル書「睦」揮毫

2022 KAMIKAWA HOTEL ホール大壁書「上川」揮毫 上川町

2023 北の聲アート賞 書の美賞受賞

2025 第15回八重柏冬雷獨り展 廊-KOHBUNDO・帯広



題
vibrate_I

寸法
和紙、墨、メディウム

材料
70×70 cm

コメント
「書」とは「音・言葉・意味・空間・振動」などの多層的な要素を含む。
今作品は言葉の音が空間に残す『振動の痕跡』を視覚化する試みです。



作
山田しおり

師
Yamada Shiori

連絡先
外林道子

経歴
info@shiori-y.net

2015～ 第64回奎星展 以降毎年展示

2018 Le Salon in Paris

2019 Galarie Linda Farrell in Paris

2020、2021 NAU21世紀美術連立展

2021 Art point bis in Ginza

2021、2022 LE SALON D'AUTOMNE in Paris

2023 Galarie Linda Farrell in Paris

2024 Ten・ten～書・今・旬～

その他国内外で作品を発表



題 心の窓．まなざし

寸法 90×300 cm

材料 墨、ネオカラー、画仙紙

コメント 「眼差し」のタイトルで作品創りに取り組んだものの一步でも進んだ表現が出来たであろうか



作 山田翠香

Yamada Suika

生年 1947

所属 奎星会、一華会

師 大楽華雪

連絡先 090-2095-2408

経歴 2000 奎星展上田桑鳩記念賞受賞
2005 毎日書道展会員賞受賞



題 宙（そら）

寸法 30×42 cm

材料 ケント紙、ネオカラー、マスキングテープ

コメント 宇宙へと広がる世界に魅了され、新しい世界へと羽ばたき作品の進化を願う。



作 横川清雅

Yokokawa Seiga

生年 1952

所属 奎星会、照心書道会

師 小林清風、石井抱旦

経歴 2000 奎星新人100人展 上野の森美術館
2017 照心書道会 高橋竹村賞
2024 奎星展 準特撰



題 **Avenir**

寸法 60×240 cm×2

材料 台湾紙、墨、ネオカラー、木工用ボンド

コメント 円と線がつづるメロディーは、リズムとピッチを繰り返し奏でていく。
その想いは∞に広がる未来へとつなげたい。



作 **横山千恵美**

Yokoyama Chiemi

生年 1959

所属 福井、奎星会、書勢会、福井県書作家協会

師 吉川壽一

連絡先 090-9767-7980

経歴 1999 第48回奎星展 天野翠琴記念賞
2001 奎星会同人
2017 第2回福井県書作家協会会員展 福井新聞社賞
2024 書勢会展 1990年から毎回出品 福井県立美術館・福井市美術館
2024 Ten・ten 2024 in 横浜赤レンガ倉庫

